

【 令和6年第4回定例予算特別委員会 】

【 農業農村整備の推進について 】

農地や農業水利施設は、農業生産の基盤であるとともに、食料安全保障や国土の保全にも寄与しています。世界的な人口増による食料需要の増大や異常気象による農産物の生産減少等、我が国の食料の安定供給に対するリスクが顕在化している中、これからも食料を安定的に供給していくためには、生産基盤の整備・保全を計画的に進め、良好な営農条件を整えながら生産性の向上を図ることが重要と考えます。

道では、農業農村整備をどのように推進していくのか、以下、数点伺います。

(一) 整備の状況について

農業従事者が減少する中、本道農業の生産力や競争力を一層強化していくためには、農業農村整備により、農作業の効率化や生産性・品質向上などを進めていく必要がありますが、近年、道ではどのような整備を重点的に進めているのか、伺います。

(答弁：農政部農村振興局農村設計課長 榎 研一)

- ・農家戸数の減少や自然災害の頻発など、食料安定供給のリスクが高まる中、本道農業の一層の生産性の向上を図るとともに、異常気象にも備える農業農村整備を進めることが重要。
- ・道では、農地の大区画化、排水対策や飼料生産基盤の整備、農業水利施設の整備・保全などを重点的に進めている。

(二) 整備構想の策定について

道の重点的な取組について伺いました。そうした整備を着実に進めて行くためには、地域の将来像を踏まえた整備構想づくりが重要と考えますが、地域では人材が不足しており、苦慮しているとの課題もあると聞いています。そのような地域の取組を道が支援していくことが必要と考えますが、道は、どのように取り組んで行くのか、伺います。

(答弁：農村計画課長 鈴木仁志)

- ・整備を計画的に進めて行くためには、市町村などが中心となって、将来の構想策定が重要であるが、整備に精通した職員が減少し、関係者の合意形成や整備構想づくりなどに苦慮。
- ・道では、市町村等を対象とした各種研修により、整備に関

する知識や技術力の向上を図るほか、地域関係者が整備構想を検討する場において、課題を『見えるか』するために必要な整備履歴、担い手の耕作状況など地図情報を提供、整備手法に関する技術的な助言など、整備構想づくりが円滑に進められるよう支援。

(三) 国営事業との連携について

道が実施している農地の大区画化や農業水利施設の整備などについては、国営事業でも進められています。

整備を効果的に進めていくためには、道と国が連携する必要があると考えますが、道では、その調整をどのように進めているのか、伺います。

(答弁：国営調整担当課長 伊藤隆之)

・農地や農業用施設の整備に当たっては、目的や内容、規模に応じて、国営事業や道営事業等を効果的に活用していくことが重要。

・この為、道では、国と協議会を開催し、地域における整備要望や新規採択に関する情報を共有、国営事業の実施に当た

っては、市町村などが参画する委員会を開催し、整備内容や費用負担の協議。進捗状況や道営事業等との整合性を確認するなど双方の事業が効果的・効率的に実施されるよう、国と調整に努めている。

(四) 農業農村整備の効果について

生産性の向上に向け、様々な整備を進めているとのことですが、基盤整備により、どのような効果が発揮されているのか、また、地域の農業者からはどのように評価されているのか、伺います。

(答弁：農村振興局長 大西峰隆)

- ・道が行った基盤整備の有効性調査によると、大区画化を行った水田で稲作の作業時間が 2 割削減、暗渠排水を整備した農地で小麦などの収量が 1 割から 2 割増加、大雨後に行う機械作業が 3 日程度早く開始。
- ・畑地かんがいを整備した畑で、干ばつ時において、タマネギの収量が 5 割増加、大きなサイズの割合も増加。
- ・農業者からは、整備を契機に『野菜などの高収益作物導入

で農業所得が増加』『スマート農業を導入し、農作業の大幅な省力化』『経営が安定し、子供が跡を継いでくれた』といった声がある。整備の実施により、高い評価をいただいている。

(五) 農業農村整備の着実な推進について

食料の安定供給の重要性が再確認される中、人口減少下においても必要な農地、農業用水等を確保するなど、農業・農村を取り巻く情勢の変化に対応しながら、食料安全保障の確保を図る必要があると考えます。

道としては、今後、農業農村整備の推進にどのように取り組んでいくのか伺います。

(答弁；農政部長 水戸部裕)

- ・農家戸数の減少や災害リスクの増加など、農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、本道農業が食料供給地域としての役割を果たしていくためには、農業農村整備を着実に進めて行くことが重要。
- ・道では、農地の大区画化や排水対策、農業水利施設の整備・

保全などを進めるとともに、地元関係機関・団体を積極的に支援するなど、事業の円滑な推進に向け、取り組んでいる。

・道は、多くの整備要望に応じていくため、必要な予算の確保や農家負担の軽減に努め、国とも連携を図り、農業農村整備を計画的に推進し、本道農業・農村の持続的な発展と食料安全保障の確保に貢献してまいる。